

第2回 （仮称）江東区新庁舎建設基本計画 アドバイザリー会議

議事要旨

日時	2026 年 2 月 20 日（金）18:30～20:00				
場所	江東区文化センター 6 階 第 1・第 2 会議室				
出席者 （オンライン参加含む）	学識経験者・有識者（委員五十音順）	会長	芝浦工業大学 建築学部 教授	志村 秀明会長	
		副会長	東京大学 生産技術研究所 教授	加藤 孝明副会長	
		委員	東洋大学 経済学部 教授	芦谷 典子委員	
			東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授	菅原 麻衣子委員	
			江東区 CIO 補佐官（アビームコンサルティング）	三上 泰地委員	
			日本大学短期大学部 建築・生活デザイン学科 准教授	山崎 誠子委員	
	事務局	江東区		炭谷新庁舎整備推進室長 半田新庁舎整備推進課長 小林企画課長 棚瀬 DX 推進課長 新居防災計画課長 朽谷区民協働・交流推進担当課長 谷川都市計画課長 新庁舎整備推進課職員	
		基本計画策定支援業者 株式会社日本総合研究所			
議事	1. 基本計画策定に向けた区民等の意見聴取について（報告） 2. 導入機能の検討状況について				

■会議概要

1. 基本計画策定に向けた区民等の意見聴取について（報告）

- 令和7年度実施の区民ワークショップなど、丁寧な意見集約をしているが、全てを叶えることは困難なため区として何を重視するか見極めが必要。
- 働く側の視点からのアクセシビリティについても検討すべき。

2. 導入機能の検討状況について

（1）防災

- 庁舎敷地はゼロメートル地帯であり、地下の排水では水害軽減効果は期待できない。
- 災害時、避難空間と庁舎機能を分けておかないと業務継続に支障。
- 継続的な電力確保が重要な課題。

（2）交流・協働

- こどもの居場所について、対象年齢層・利用目的・設置場所（庁舎か文化センター

か) の整理が必要。

- 文化センターの現状（動線のわかりにくさ、ロビーの活用不足等）を踏まえ、新文化センターの機能の見直しが必要。
- 交流・協働機能は、文化センターに置くべきものと区役所として必須のものを明確に分けて検討する必要がある。

(3) 性能（環境・セキュリティ）

- 環境性能について意見なし。
- セキュリティの強化と区民への寄り添いの兼ね合いは、ゾーニングの工夫で解決が考えられる。

(4) その他（建築計画）

- 高層化した場合、上下のアクセス、エレベータの待ち時間や混雑が課題。基準階面積をなるべく大きくとることはエレベータの待ち時間改善などにもつながる。
- 地下は浸水リスク等を考えると「設けない」方針が妥当。
- 2階窓口となる場合、区民の動線誘導・高低差の軽減など、外部との連続性に配慮が必要。
- 1階を駐車場のみとせず、広場や交流活動が“見える”空間とする方が望ましい。
- アトリウム・吹き抜けなどを活用し、1～2階を一体的な交流空間として構成するイメージを現段階から検討することが必要。
- 庁舎と文化センターは開館曜日・時間が異なるため両施設を一体化すると管理やセキュリティ、夜間利用が複雑化するため並列配置で分離する方針が望ましい。